

「全少」を日本一研究する指導者による提案

# ZENSHOに 挑戦しよう!



第84回

養正館館長 渡辺貴斗

## 理不尽な要求をしてくる親たち(その8)

今回は、稽古中に子供がケガをしたときの保護者対応について考えてみたいと思います。昔は、「空手は格闘技なのだから少しくらいのケガは仕方がない」という指導者・保護者の共通認識がありました。しかしながら現代では、「ケガをさせる事は絶対にあってはならない」と、保護者の意識が大きく変わってきています。

### ★ケガとは言えないケガでも報告

私の娘が幼稚園に通っていたころの話です。ある日、幼稚園から突然電話がかかってきました。用件は、娘が自分で引き戸を閉めた時、指を挟んだということです。「怪我をさせてしまい申し訳ありませんでした」と何度も先生は平謝りしていました。「全然気にしないでください、うちの娘が悪いのですから。お忙しい時間に申し訳ありません」と逆にこちらが恐縮してしまいました。帰宅した娘の指を見ると絆創膏が1枚巻いてあって、剥がしても外傷は何もありませんでしたし、本人も痛みはないと言っていました。

なぜこのようなケガとも言えないような程度で、幼稚園は緊急連絡してきたのでしょうか？ それは過去に、幼稚園側の責任を厳しく追求した親御さんがいたのでしょう。自分たちもそうならないように気をつけよう、と夫婦で話し合ったのを覚えています。だからと言って、「空手は武道なのだから、少しくらいのケガは親御さんも気にしないだろう」と考えるのは早計です。私たち夫婦のように考えるのは少数派かもしれませんが、幼稚園の対応のようにやりすぎなくらいの方が良いのかもしれませんが。1クラス30名のクラスの場合、ケガした子は指導者にとっては30分の1ですが、お母さんにとっては1分の1のかけがえのない大事な我が子なのです。その認識が欠けていると、「ちょっとぶつけたくら

いで泣くな」、「痛いっていうのはウソだろ、いいから続けて練習しろ!」、などと心ない言葉を掛けてしまうのです。

### ★危機管理を常に考える

10年ほど前に、練習中に転倒して前腕を押さえて痛がる子がいましたので、道場の隅に座らせておきました。おとなしい子だったので泣いたりせず静かに座っていました。お迎えの車で渋滞し、てんてこ舞いだったこともあり、お母さんには何も伝えずそのまま帰しました。その2時間後、その子のお母さんが、怒りに満ちた鬼の形相で道場に乗り込んできました。いつまでも痛がるので救急病院に連れて行ったところ、前腕が骨折していたようで、これで6年生最後の運動会も出場できなくなると私を罵倒しました。私は事の重大さに初めて気づき平謝りし、自分の未熟さ、不甲斐なさに落ち込みました。

このことを機に、危機管理として何ができるだろうかと考えました。通常は、応急処置と考えると冷やすことです。すぐに、「ビジネスホテルに備え付けしてある小さな冷蔵庫」を購入し、道場に設置しました。冷凍庫に保冷剤を常備し、打撲したときにすぐに冷やせるようにしました。また、ちょっとしたケガでも、すぐに座らせるようにし、帰りの時間まで5分おきに経過観察をするようにしました。帰りまでに痛みが完全に引けばそのまま帰りますが、まだ痛みが残る場合は、お母さんがお迎えに来られたときに、何があったか詳しく報告するようにしています。

報告の要点は、「何をしているとき、何が起きたか」、「どの部分を、どんな風に痛がっているか」、「何分前くらいにケガをして、今までどんな応急処置をしていたか」、「このあと、自宅に帰ってどんな処置をしてほしいか」です。特に最後の部分は、「今

晩、痛みがどんどん引いていけば大丈夫だと思えますが、痛みがまったく引かないようでしたら救急病院に行ってレントゲンを撮ってもらってください」と付け加えます。そして、最後に「こちらの練習メニューに問題があったと思います。再発しないように改善します。申し訳ありませんでした」と謝罪し、実際にメニュー、段取りなどを精査します。大切なのは、言い訳など一切せず必ずこちらの非を認め、一方的に謝罪します。

たとえ子供がふざけて勝手にケガした場合でも、私の監督下にあったわけですから「指導者の監督不行き届きでした」とこちらの非を認め、謝罪します。自転車通っている中学生が道場でケガしたときは、私の車に自転車を載せて自宅まで送っています。

姿勢と誠意で普段から信頼を得る努力をすることです。そこまでやると、たいていのお母さんは、「先生、ウチの子が悪いんです、大丈夫です」のように言ってくれます。

### ★その後の経過を追う

ここまでは、現場での緊急対応です。翌日になっても、親御さんから何も連絡がなかったからといって、放っておいてはいけません。必ず、「その日の夜、翌朝、約3日後」の3回は、急変しなかったか、病院に行った場合はレントゲンを撮ってどうだったか、などこちらから伺いを立てます。安易に「スポーツ保険が使えます」といった事務的な対応をするのは厳禁です。一緒にお母さんの気持ちに寄り添い、いかに子供さんの体調を心配しているか、お母さんと同じ気持ちで案じなくてはなりません。「右腕のケガですと鉛筆が持てないですね。学業にも影響が出てしまいます、明日からどうやってノートをとっ

たらいいのか困りますね」。「足の骨折ですと松葉杖になりますね。登下校を送迎できるご家族はいらっしゃいますか？」など、お母さんの気持ちに寄り添って、一緒に子供さんのケガを憂い、体調を案じなくてはなりません。

### ★大したことありませんよ

「大丈夫ですよ」、「大したことなくてよかったですね」、「これくらいのことでは泣いているようでは強くなれませんよ」、「自分で勝手にふざけて転んだんです」等のセリフは、絶対にこちらから言うてはなりません。「この先生、責任回避するつもりだ」とお母さんの怒りのスイッチが入り、「大したことない、とはどういう意味ですか?」、「次の日、会社を休んで病院に連れていったんですよ。どれだけ大変だったか、軽く見ていませんか?」、「だいたい、道場の稽古方法に問題があるんじゃないんですか? 道場の責任じゃないんですか?」、「こんなに痛がっているのに、可哀そうに。よくそんなこと言えますね」と集中砲火を浴びてしまうのです。

「大したことありません、大丈夫です」のセリフは、こちらからではなく、お母さんの方から言っていたように、誠意をもって謝罪し、心から子供さんの体調を気遣う姿勢を見せることが望めます。

#### PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年5名、2014年・2015年7名、2016年5名、2017年9名、2018年・2019年5名を全少入賞させ、一道場での全国最多入賞を連続で記録する。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。

空手道場 養正館 / 静岡県沼津市本田町 11-12



## Column どうやって道場生 350名に増やしたか? その33

### ■弱者の戦略6 陽動戦 (ゲリラ的奇襲戦法)

引き続き、弱者が強者に勝つための具体的な戦略を考えていきましょう。

弱者である道場は、強者である道場に真っ向勝負で挑んでも太刀打ちできません。戦法が正攻法であればあるほどそれは難しくなります。なぜなら、強者は正統な方法を取り入れており、その正統なやり方が業界最強だからです。そこで、強者の道場が思いもつかない、奇抜なやり方を仕掛けることで、強者の牙城を切り崩すことができます。陽動戦、つまりゲリラ的戦法です。陽動戦とは「敵に味方の本当の作戦を見せないようにし、わざと目立つように嘘の作戦を仕掛け、そちらに敵の注意をひきつけておいて、本来の作戦を実行すること」です。つまり、「裏をかけた奇襲戦法」です。

「あの道場、変なこと始めたなあ。まあ、相手にするほどでもないか」と強者に思わせれば、半分成功です。意味が分からない、馬鹿馬鹿しくてマネする気にもならない、あんな面倒なことよくやるな、

まあ勝手にやっていたら、と思わせるのです。強者は現状でうまくいっているのに、危険を冒してまで奇抜な行動をマネすることはありません。

居酒屋でサイコロ2個を振って、ゾロ目で無料、偶数で半額、奇数で2倍量注文、というチンチロリンハイボールというものがあり、大変人気だと聞きます。

男前豆腐店の豆腐は、ネーミングが奇抜すぎて大手は真似できません。パッケージには、「風に吹かれて豆腐屋ジョニー」などと大きく印字されており、奇抜さで大ヒットしました。

道場経営においても、誰も思いつかない奇抜なアイデアで弱者も生き残ることができるかもしれません。宿題を見られる寺子屋併設の道場、実態が無いリモート指導のみのエアード場、英語ネイティブが英語のみで教える道場、空手を教えない空手道場?、指導者がいない空手道場??、生徒のいない空手道場??、など適当に思いつくままに書きましたが、実行するときは自己責任で(笑)。